

こうほう ショッキング

Vol.72

Kōhō shocking



す ざわ けい こ
須澤佳子さん

●プロフィール

36歳。東京都出身。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了後、福岡にある青汁などの健康食品会社に就職。商品開発から味作り、コマーシャルに至るまで携わる。平成23年、対馬市が採用した島おこし協働隊のメンバーとして来島。地域の若者たちと共に任意団体を発足、地域素材を生かした商品開発を通じて対馬をPRする。現在、特定非営利活動法人対馬次世代協議会（対馬コノソレ）統括プロデューサー。厳原町天道茂在住。

○対馬と須澤さんが繋がった経緯を教えてください。

就職先では、作物を有機栽培するところから基礎研究、応用商品の開発、販売のキャッチコピーや宣伝まで携わることができ、本当に充実した4年間でした。やりたかったことが全部できる会社でしたし、尊敬できる先輩に初めて出会えた場所でもありました。もともと、農業やバイオベンチャーで起業したいという思いがあったところ、対馬市で人材の募集があったんです。その一つに薬草を用いる担当があり、強く興味を持ちました。多くの健康食品が開発される中で、差別化のための素材が求められます。島にどのような素材があり、それが産業になるのか、見てみたい！やってみてほしい！と思いました。そんな時、東日本大震災が起こりました。東日本の素材は使えなくなり、素材探しの目は西日本へと移りました。対馬はその西の端。私が開発者なら、島の素材を絶対使おうと思ったんです。まずは素材の掘り起こしから始めよう、島の中に「カギ」を見つけよう、と対馬行きを決めました。

○「カギ」探しは順調でしたか？

人という「カギ」と出会い、ヒントや素材という「カギ」と出会う、まさにロールプレイングゲームのようでした（笑）。対馬には薬草の他にも、野いちごなど野生のフルーツをはじめ興味深い素材がたくさん。薬草を商品化するのには時間がかかりますから、対馬に今ある素材で商品化できるものから始めることにしました。「自然素材とフルーツと薬草の島」として打ち出せないだろうか、と考えたんです。

○いろんな素材が商品になってきていますね。

ブルーベリーは『島の瞳』と命名し、サイダーやご当地アイスとして商品化できましたし、島内でたくさん実っているびわはシャーベットに。対馬の赤米と神事にも着目した酒粕アイスや、そばを使ったアイスも誕生しました。また今回、そばの茎と葉を薬草として利用し、飲み続けやすい価格の健康食品にした青汁を新たに発売しました。血圧が下がったという人が予想以上に多くて喜んでいきます。自然豊かな対馬の人たちには健康でいてほしいですからね。定期購入できますが、お試しサイズを島内の各店舗で販売中です。ぜひどうぞ。そばの葉は生でも美味しいですよ。刈り入れ時に試食しましたが、苦味と

酸味が程よく、サラダ菜のように食べられます。青汁も、生の葉も、有能な成分データを分析して今後紹介していきたいです。

○須澤さんにとってこの仕事は？

人生かけた楽しみ、でしょうか。だから、きちんと仕事にする、そこまで頑張ります。対馬には「夢のマイホームを建てる」と同じくらいのワクワクがたくさんぶらさがっています。この楽しみや夢のために、今一緒にやってくれている人がいることは本当に嬉しいです。皆さんには、これからもいろいろ参加して楽しんでほしいし、今は半信半疑だとしても、ほんとだったねと言ってもらえるまで走り続けます。対馬に来るきっかけがあったから、今の私の世界が10倍は広がりました。対馬には本当に感謝しています。これから島のいろんな素材を担当、島の全てを紹介し、対馬を売り込める人間になりたいです。「須澤がしゃべったら、100億円売り上げる」と言われるくらいになりたいです。かなり盛りすぎましたが（笑）。

毎回、登場してくださった方に次の方を「紹介いたたくこのコーナー」。次回は厳原町下原にお住まいの柚原広孝さんです。お楽しみに。